

## 学校評価報告書(自己評価書・学校関係者評価書)

中期目標	重点努力目標(評価項目)	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)		
する前向きで、豊かな心を育む	明るく活動する	B	B	・「時間・あい・そう」の意義を再確認し、全校で取り組むことで、気持ちのよい集団をつくる。 ・特別活動の充実を図り、子どもの自発的活動を積極的に展開する。 ・学級・学校目標を共有し、誰もが自分事として学級・学校づくりに取り組む。	A	・あいさつが自然とできるようになった子が増えた。あいさつ運動に立つ子どもや先生が多くなり、とてもよい雰囲気になった。 ・今月のめあてに「時間・あい・そう」を取り入れたことで、意識が高まっている様子が見られた。 ・静かにそうじすることへの徹底が難しかった。 ・学級会で学級の状況について振り返ることで、自分事としてどうしたらよいのか考え行動する姿が見られるようになってきた。	・教室入り口に見えるように挨拶が自然とできるような掲示の工夫がされている。 ・目を見て挨拶ができる子が多い。明るく印象がいい。 ・笑顔いっぱいの写真が掲示されている元気になれ。 ・そろじ道具などのクラスもきれいに整頓されていた。そろじへの意識も高まっていると思う。 ・地域で生活している場面を見ていると子どもたちがんばっている。	・あいさつ運動を教師と子どもがともに行うという今の雰囲気を大切に続けるとともに、子どもたちが場に応じて自分から気持ちのよいあいさつができるように働きかけを進める。 ・各学級や委員会(キャンペーン)で、きれいにそろじをするなどを意識させて、自分事としてできる子を増やしたい。 ・子どもや学級のよい姿を全校・全体へ広めていきたい。 ★子どもと教師が一体となって意識をさらに高める取り組みを進めたい。	
きめるためのよりよし「時」と「場」をつくらうとする	「共生の意識や他者を思いやる心の育成」	B	B	・「みんなが幸せな学校・学級」を目指し、誰もが自分事に学校・学級づくりに参画し、眞のインクルーシブ教育を。 ・「心が動く」体験や「心に響く」指導で子どもの感性を磨く。					
る確かな態度を養うとともに、活用できる	〔感性と学びの育成〕	B	B	・興味、関心、疑問、感動が生まれる「学びの場」や「体験的な学習」を重視する。 ・自ら問題を見つけ、主体的に学習に取り組めるような授業構想の工夫をする。	A	・子どもたちが自然に学びに向かうように導入の工夫に焦点を当てて授業を創造した結果、子どもたちの学びが深まった。 ・宿題を家庭学習へ移行するような取り組みをし、子どもの意識が変わっていた。 ・「問い合わせ」「返信」を大切にするスタイルの授業は、問題解決的な学習をする上で非常に重要だと感じた。引き続き取り組んでいかたい。	・宿題が少ないと保護者は学力の心配をするので、安心してもらえるように子どもたちに学習への意欲が見られてくるとよい。 ・授業の様子を見て、前向きな姿勢で取り組んでいるを感じ取れた。 ・眞の学力を養うといいこと。	・主体的に学ぶ力につけるための、授業や家庭学習のあり方をこれからも考え、子どもの学びを進めていきたい。 ・朝礼での校長先生のお話や学校や社会で起きたことに思いや考えをもち、問い合わせ、振り返など、授業以外でも活用できる眞の「学力」を養う取り組みを深めたい。 ★家庭学習のあり方について家庭への周知と連携をとって進める。	
〔確かな学力を育む〕自ら考え、自ら考へ、自ら	〔思考力の育成〕	B	B	・「聴く力」「読み取る力」を高め、本質が理解できる子に育てる。「思い」をもち、それを「実現」するためには考え行動する過程で、活用できる学力を養う。	A				
やかな心育成をめざす力の向上強化を	心の育成	A	A	・「ピンチはチャンス」と乗り越える経験から学ばせる。 ・子どもが挑戦する機会をつくりがんばりを価値づける。 ・道徳・生き方教育を充実させ、多様な考えにふれさせる。	A	・コーチングや元オリンピック選手の生き方・考え方による影響を与える講話を設けたことで、子どもたちが合言葉のように前向きな言葉を発し、がんばる姿が見られた。また、生き方部会が子どもたちが学んだことを共有する場を設け、生き方を学ぶという意識が高まっている。 ・体力測定・ペジチェックコーナーを設けたことで、自分の体に关心を持つようになった。	・経験者の語る生き方は確実に子どもにも届いていると思う。引き続き様々な方に出会える機会があるとよい。 ・廊下に体力向上や楽しさを考えて体を動かせる工夫がされていてよかった。	・今年のような子どもたちが主体的に活動できるように、経験豊かな講師の先生をお招きするとともに、道徳で靠人の方の生き方について着目できる機会をさらに増やし生き方部会の活動をより充実させる。 ・子どもたちがのびのびと体を動かせる場所の確保や用具をさらに充実させ、活用方法を考えていく。 ★子どもたちが生き方を学ぶ機会を計画的に取り入れる。	
保育・児童の健康の	心身の健康の	A	A	・体育的行事や授業の重点的な取り組み、外遊びの励行により、体力の向上と心の安定を図る。 ・栄養教諭を核に食育の推進。不登校児童への自立支援	A				
域内・家庭・地域との連携	活躍の基礎づくり	A	A	・「自立・自律・共生」という目標の共有と推進 ・「早寝・早起き・朝ご飯」「あいさつ」「時間を作る」「約束を守る」の励行に共に努める。 ・「メディアチャレ」によるセルフコントロール力向上	A	・年3回のメディアチャレンジでレベルを決めて、挑戦していた。普段の生活中でコントロール力が育つように保護者とともに考えさせる場面があったことはよかった。 ・地域教材やゲストティーチャーを積極的に取り入れることが、子どもの意欲的な学びに繋がっている。 ・体力測定・ペジチェックコーナーを設けたことで、自分の体に关心を持つようになった。	・家庭と協力して取り組んでいくことは大切なことで、日常生活の中で具体的にどのようにしていくのかを今後も考えさせてていきたい。 ・感謝したい人という掲示に、地域の黄色のベストを着た人と書いてあり地域の見守ってくれている方たちとの関りができるている。 ・世代を超えて人と関わることで得るものはあると思うので大切にしてほしい。	・メディアについて家庭と連携して取り組んでいくことで、日常生活の中で具体的にどのようにしていくのかを今後も考えさせてていきたい。 ・三世代交流など新しい形で再開されたものもあった。新たなものも含めて、計画的に取り入れていきたい。 ★地域の方など人と触れ合う場を積極的に取り入れる。	
教育活動を展開する。	〔家庭・学校づくり〕	B		・地域の「人のこと」をいかして、学校行事や授業づくりに取り組む。	A				
生かして学校の教育力向上へ	環境づくり	A							
【学校の教育力向上】教師一人一人が持ち味を	安心安全な学習	A							
【学校の教育力向上】教員一人一人が持ち味を	授業力の向上	A	A	・インクルーシブ教育とユニバーサルデザインの浸透など、さまざまな個に対応できる児童支援体制の構築と校内サポート室のよりよい運営。 ・専門的な研修による教師力(生徒指導・生サポ・学級経営)の向上。 ・教職員の危機管理意識の向上と南海トラフ地震への対策強化	A	・校内生活サポート室や通級教室の学びなど、一人一人の特性や場面に応じて合理的配慮を提供することで、安心して登校し学習できる子どもが増えた。 ・災害時を想定して避難訓練や避難経路などを見直し、適切な行動がされるよう子どもや教職員の意識を高めることができた。 ・「導入の工夫」を焦点に研修を行った。学校訪問の時期に合わせたことで研修が生き効果的であった。 ・検討の視点を絞った授業研究会は、よりよい指導法の見直しつになかった。 ・学年全体で学年の子どもたちを見守るだけでなく、学校全体で情報を共有し、ともに考えてよりよい方法を考えることができた。	A	・授業力の向上を図るためにポイントを明確にして授業研究を継続していくとともに、教員のニーズにあった研修を設けたい。 ・運営委員会で各学年的情報交換を次年度も行うこと、他学年の状況を踏まえ学年の指導をしていく。 ・適正な勤務時間で働くことができるよう効率的・効率的な計画を立てるとともに、お互いに声をかけ合い、仕事を協力して進めていく雰囲気づくりを今後も大切にしていく。 ★災害時に命を守るために様々な状況を想定した取り組みを進める。	
【学校の教育力向上】教員一人一人が持ち味を	機能力の向上	A							
【学校の教育力向上】教員一人一人が持ち味を	働き方改革の推進	A							

【自己評価 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:あまり達成されていない D:ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・Dで評価】【関係者評価 A:適切である B:概ね適切である C:あまり適切ではない D:適切とは言えない】